

「未来への施し」

大本山總持寺布教教化部参禅室長 花和浩明

お彼岸まで続いた残暑も今はすっかり影をひそめ、冷たい風に揺れる葉の色合いも一段と秋の深まりを感じさせてくれます。それにしても、今年の夏ほど世界的な気候の変動を感じる夏はなかったように思えます。このまま何もしなければ、私たち人類は未来の子供たちに、夏には外で遊べないような過酷な環境を残してしまうことになるでしょう。地球温暖化に伴う気候変動の問題は、全人類が待ったなしで取り組まなければならない課題だと感じました。

暑さで苦しい思いをしていた中、とてもほっとするニュースが話題になりました。山口県に家族で里帰りしていた2歳の男の子が、近くの山の中で行方不明になりました。警察をはじめ地元の方々150人が総出で探したにもかかわらず、三日目になっても発見されませんでした。2歳の子供ということもあり、無事発見を待ちわびていた家族には、本当に生きて会えるのかという不安も大きくなってきました。そんな時、大分県からボランティアでやってきた78歳の男性が、奇跡的に男の子を探し出し、無事に母親のもとにとどけたのでした。

世間の人々は、探し始めてわずか30分で探し当てた男性の卓越した能力に感嘆しました。それにしても、遠くから手弁当でやってきて、全く見返りを求めずにこやかに去っていったその爽やかなふるまいに、皆が感動しました。

仏教では菩薩行としての布施を説きます。布施とは見返りを求めない施しのことです。無償の施しによってのみ、人々の深い苦しみが癒されるのです。また施しには、物質的な施しもあれば、精神的な施しもあります。男性はボランティア精神と、慈悲あふれる笑顔の施しで、男の子の家族をはじめ、多くの人々の苦しみを癒してくれたのです。

私は、地球温暖化の原因の一つは、世界中の人々が常にあくなき欲望を満たすための人生、言い換えれば見返りを求め続ける人生を選んでしまっていることにあるのではないかと思います。人類の英知を結集して、未来の子供たちにこれまでのような「楽しい暑さの夏」を残してあげるからこそ、今のわたくしたちに課せられた未来への施しだと思えます。